様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	浜松未来総合専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

１.「実務経験のある教員等による授業科目」の数
令和８年度入学生

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門課程（文化・教養）	グラフィックデザイン科	夜・通信	53単位	10単位	
	メイクブライダル科	夜・通信	68単位	7単位	
専門課程（工業）	デジタルコンテンツ科	夜・通信	71単位	10単位	
	セキュリティネットワーク科	夜・通信	32単位	7単位	
	AI×コンピュータ科	夜・通信	23単位	7単位	
	ゲームクリエイト科	夜・通信	79単位	10単位	
	ＣＡＤデザイン科	夜・通信	31単位	7単位	
	国際ＩＴ・ＣＡＤ科	夜・通信	40単位	7単位	
専門課程（商業実務）	医療事務科	夜・通信	54単位	7単位	
	国際観光・ビジネス科	夜・通信	35単位	7単位	
専門課程（教育・社会福祉）	未来こども科	夜・通信	76単位	7単位	
	国際介護福祉科	夜・通信	96単位	7単位	
（備考）					

令和７年度以前入学生

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門課程（文化・教養）	グラフィックデザイン科	夜・通信	1250時間	240時間	
	メイクブライダル科	夜・通信	1550時間	160時間	
専門課程（工業）	デジタルコンテンツ科	夜・通信	1730時間	240時間	
	セキュリティネットワーク科	夜・通信	850時間	160時間	
	AI×コンピュータ科	夜・通信	480時間	160時間	
	ゲームクリエイト科	夜・通信	1650時間	240時間	
	ＣＡＤデザイン科	夜・通信	720時間	160時間	
	国際ＩＴ・ＣＡＤ科	夜・通信	850時間	160時間	
専門課程（商業実務）	医療事務科	夜・通信	960時間	160時間	
	国際観光・ビジネス科	夜・通信	780時間	160時間	
専門課程（教育・社会福祉）	未来こども科	夜・通信	76単位	7単位	
	国際介護福祉科	夜・通信	2148時間	160時間	
（備考）					

２.「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	浜松未来総合専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ（https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/governance/）にて「役員名簿」を公開

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業代表取締役社長	令和７年６月 12 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業監査役	令和７年６月 12 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	金融機関顧問	令和７年６月 12 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	経済研究機関専務理事	令和７年６月 12 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業取締役	令和７年６月 12 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業常務取締役	令和８年６月 23 日～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	浜松未来総合専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画（シラバス）の作成過程および公表について １２月～　次年度授業計画策定 １月～　教員へ授業計画（シラバス）作成依頼 ・授業計画（シラバス）ガイドライン配布 ・授業計画（シラバス）テンプレート配布 ２月～　授業計画（シラバス）回収・チェック ３月～　授業計画（シラバス）公開
授業計画書の公表方法　https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

本校では、教育の質保証の一環として、教育活動が、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの３つのポリシーに基づき適切に機能しているかを、多面的、総合的に点検・評価に、必要な改善に繋げます。点検・評価にあたっては、学修の到達度を、機関レベル（学校全体）、教育課程レベル（学科）、授業科目レベル（科目担当者）の各レベルで以下のような方針で検証します。

評価時期／レベル	**入学前・入学直後**（AP を満たす学生が入学しているか）	**在学中** **単位認定・進級判定**（CP に基づいて学習が進められているか）	**卒業時（卒業後）**（DP を満たす人財になったか）
機関レベル（学校全体）	各種入学試験結果 入学生アンケート	成績総得点 修得単位数 休退学率 学習到達度 学生満足度調査	卒業率 就職率・専職率 卒業生アンケート 卒業後追跡調査 学修到達度
教育課程レベル（学科）	各種入学試験結果 入学生アンケート	成績総得点 成績分布 学生満足度調査 資格取得実績 コンテスト・コンペ 企業・地域連携 PBL 進級率	卒業率 資格取得者数 卒業生アンケート 就職率・専職率 卒業後追跡調査
授業科目レベル（科目担当者）		成績評価（単位取得率） 成績分布 出席状況 授業評価アンケート	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数））　÷　科目数

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材
産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。
※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材
多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。
※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材
一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。
※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

１年生
修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

２年生以上
卒業する学生は教育課程表において必須となる科目全ての成績において不可を認めていない。進級においても同様である。また、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の１５％以内であることも卒業・進級の認定基準とする。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校)】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	浜松未来総合専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	静岡理工科大学グループ ホームページ https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/financial-statements-and-activity-reports/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td colspan="2">課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化・教養</td><td colspan="2">専門課程</td><td colspan="2">グラフィックデザイン科</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2" colspan="2">全課程の修了に必要な総
単位数(総単位時間)</td><td colspan="6">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td colspan="2">実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３年</td><td rowspan="2">昼間</td><td rowspan="2" colspan="2">111
(2620)</td><td>23
(550)</td><td>96
(2,310)</td><td>0</td><td>0</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td colspan="5">119(2,860)</td></tr>
<tr><td colspan="2">学生総定員数</td><td colspan="2">学生実員</td><td>うち留学生数</td><td colspan="2">専任教員数</td><td colspan="2">兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">60 人</td><td colspan="2">82 人</td><td>2 人</td><td colspan="2">3 人</td><td colspan="2">14 人</td><td>17 人</td></tr>
<tr><td colspan="10">（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記</td></tr>
<tr><td colspan="10">カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</td></tr>
<tr><td colspan="10">（概要）
グラフィックデザイナーを主としたクリエイティブ関連従事者の育成を目的に授業を実施する。授業は講義、演習により構成される。講義科目では、グラフィックデザインとは、もの事の本質を理解し、ビジュアルアイデアによる課題解決を行うコミュニケーション手法のひとつであることを体系的に学習する。演習科目では、視覚を中心とした効果的な表現技術と各種ソフトウェアの操作技術の習得、豊かな発想と生活者視点を兼ね揃えた企画力、より的確な情報伝達を可能にするプレゼンテーション力の習得を目標とした演習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。

【1年次】
グラフィックデザイナーを主としたクリエイティブ関連職として必要な知識の習得、アナログおよびデジタルの描画技術の習得や、ソフトウェアの基礎操作を演習にて行う。

【2年次】
1年次に習得した描画技術、デザイン制作技術を基礎として、より高度な表現やソフトウェア操作技術を習得、また媒体ごとの性質を理解し、それぞれに適したデザインを効果的に制作・提案する能力を習得する。

【3年次】
２年次までのデザイン制作の技術を基礎に、コンセプトワーク、プロモーション戦略立案、ブランディング等のデザインにおける上流工程を理解し、表現へと転換する能力を身につけ、それらを活用して、個人、またはグループでデザイン制作を行う総合的な演習まで行う。</td></tr>
</table>

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋

（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定する。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材

産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。

※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材

多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。

※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。

※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

本科は専門士の認定を受けている。

・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。

学修支援等
（概要） 制作進捗報告や理解度チェックヒアリング等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には適宜応じ、個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 （100%）	0 人 （　0%）	18 人 （100%）	人 （　%）

（主な就職、業界等） デザイン・広告業界を主とした、デザイナーをはじめとするクリエイティブ関連従事者
（就職指導内容） １年次から履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い就職活動時のサポートを実施。
（主な学修成果（資格・検定等）） illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験、 色彩検定

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	4 人	5.6%

（中途退学の主な理由） 精神的理由、家庭事情
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td colspan="2">課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td colspan="2">専門課程</td><td colspan="2">デジタルコンテンツ科</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td colspan="2" rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３年</td><td rowspan="2">昼間</td><td colspan="2" rowspan="2">111
(2620)</td><td>15
(300)</td><td>104
(2,560)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="5">119(2,860)</td></tr>
<tr><td colspan="2">学生総定員数</td><td>学生実員</td><td colspan="2">うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td colspan="2">総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">60 人</td><td>60 人</td><td colspan="2">0 人</td><td>6 人</td><td>13 人</td><td colspan="2">19 人</td></tr>
<tr><td colspan="9">（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

WEB を媒介とした次世代のコミュニケーションメディアクリエイターを育成するため、以下の授業を実施する。授業は講義、演習及び実習で構成され、演習では Web デザイン並びに動画クリエイターに必須となる技術を基礎から習得させる。ビジネスを理解し、クライアントの要望に最大限応える技術力及びデザイン力を養成し、目的に応じて基本的かつ先進的な表現を行う能力を獲得させる。業界標準の各種ツール（ソフトウェア）を的確に活用し、チームによる共同制作に取り組ませる。各学年の履修概要は以下のとおりとする。

１年次

・Web デザイナー、コーダー、動画クリエイターとして必要な基礎知識・技術を習得

・職業人に求められるジェネリックスキル（コミュニケーション能力、問題解決能力等）を養成

２年次

・クリエイターとしての専門性を高めるため、プログラミング及びマーケティングを学習

・習得した技術を振り返り、ポートフォリオとして体系的に整理

より高度な技術習得を図る

３年次

・２年次までに養成した技術を基盤に、企業連携等の具体的テーマ下で総合演習を実施

・マーケティング、企画立案、コーディングから実装提案に至る一連の実践的プロセスを経験させる

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋

（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材

産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。

※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材

多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。

※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。

※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

本科は専門士の認定を受けている。

・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。

学修支援等
（概要） 小テストを実施し、段階的に学生の理解度を把握する。また、個別相談には随時対応し、放課後や長期休暇等の時間を活用して個別フォローを行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 （100%）	0 人 （　　0%）	18 人 （94.7%）	1 人 （5.3%）
（主な就職、業界等） WEB 業界、動画業界 等			
（就職指導内容） １年次からスーツマナー講座、履歴書作成指導、面接練習等を実施し、就職活動の準備を開始する。また、学生および保護者を対象に就職希望調査を行い、内定獲得に至るまで支援を行う。			
（主な学修成果（資格・検定等）） WEB クリエイター能力認定試験、Illustrator クリエイター能力認定試験			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	1 人	1.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	ＣＡＤデザイン科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	73 (1,710)	0	81 (1,950)	0	0	0
			81(1,950)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	32 人	0 人	1 人	8 人	9 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
就職先にＣＡＤを利用した製造業（主に設計やデジタルモデラー）を目標とした授業を行う。授業は講義、演習により構成される。講義科目は製造業に関わる基礎知識を学習する。演習科目は実際にＣＡＤを使用したモデル制作・作図等を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。
１年次 ものづくりに関わる上で必要な基礎知識を学ぶとともに、ＣＡＤの基本操作方法を学習し、年度末には作品制作を行う。
２年次 さらに技術力を身に着けるためにより複雑な形状のモデル制作演習や、実務を想定して期間内に複数人で作品を制作するグループ演習を行う。またＣＡＤ利用だけではなく、ＣＡＥといった解析手法も学習する。

成績評価の基準・方法

（概要）
授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。
成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 　本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト・提出課題等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （100%）	0 人 （0%）	16 人 （94.1%）	1 人 （5.9%）
（主な就職、業界等） 自動車部品メーカー、機械設計、機械加工など			
（就職指導内容） 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。 また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ２次元ＣＡＤ利用技術者試験　１級、３次元ＣＡＤ利用技術者試験　１級／準１級			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	メイク・ブライダル科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	73 (1,710)	4 (90)	77 (1,860)	0	0	0
			81(1,950)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	39 人	0 人	2 人	22 人	24 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
美容やブライダル業界で活躍する美容従事者として、「ヘア」「メイク」「ブライダル」「ビューティ」に関する知識、技術を習得する。併せて、美しい感性を身に付け、プロフェッショナルとして相応しい社会人力・コミュニケーション能力習得にも力を入れた編成とする。

【１年時】
ヘアメイク基礎、ブライダル概論、パーソナルカラー、皮膚理論、ネイルなどの美容業界に必要な基礎知識や技術を収録する。また、サービス業務接客者としてのスキルやマナー、所作、顧客視点を養うための知識をとして、語学やPCスキルを身につける。

【２年次】
1年次に学習した基礎知識を活かし、さらに専門性の高い技術を習得するために、ブライダル着付け、美容カウンセリング、フォトなどの応用実習を行う。技術をサービスとして展開する実体験を積むために、外部企業との連携実習や、ブライダルプランニングから挙式・披露宴実習を行う。

成績評価の基準・方法

（概要）
授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69点	到達目標に達している。	1
不可	0～59点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 （100%）	0 人 （0%）	19 人 （95%）	1 人 （5%）
（主な就職、業界等） ブライダル業界・化粧品販売・フォトスタジオ・エステ業界・ネイルサロン ヘアメイク事務所 等			
（就職指導内容） 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本メイクアップ技術検定・色彩技能パーソナルカラー検・ネイリスト技能検定 サービス接遇検定・ＡＷＰ検定・日本化粧品検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6%
（中途退学の主な理由） 精神的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	AI×コンピュータ科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	73 (1,720)	54 (960)	83 (2,510)	0	0	0
			137(3,470)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100 人	89 人	3 人	6 人	16 人	22 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

ＡＩ、コンピュータシステムを運用、活用できる人材を育成するための授業を行う。授業は講義、演習により構成される。講義科目は情報基礎理論等を学習、演習科目は、情報リテラシー、プログラミング等、実際の技術的操作（パソコン、タブレット等）や、グループワーク、アクティブラーニングを実施する。また、特別講座では、企業との連携授業を実施し、ビジネス遂行に必要な「報告・連絡・相談」と「情報共有スキル」を習得する。各学年の履修概要は以下の通り。

【選択Ａ履修者】Ｃクラス
１年次　ＩＣＴの活用方法を学ぶとともに、報告・連絡・相談など社会人として必要なコミュニケーションスキルを養う。
２年次　実務に即した題材を使用し、データの収集、分析、プレゼンテーションなどを行い、企業活動を総合的に理解する。

【選択Ｂ履修者】Ａクラス Ｂクラス
１年次　アルゴリズムとデータ構造の考え方、システム開発の基礎知識、Ｖｉｓｕａｌ　Ｂａｓｉｃ、Ｗｅｂアプリケーション（ＨＴＭＬ、ＣＳＳ、ＪａｖａＳｃｒｉｐｔ）のシステム開発の修得。
２年次　サーバ構築技術、ＡＩ技術の基本的な知識と技術（Ｐｙｔｈｏｎによるプログラミング技術、機械学習・ディープラーニングの基本的な知識及び考え方）の修得。

【選択Ｃ履修者】Ａクラス
１年次　Ｃ言語を中心としたＷｉｎｄｏｗｓ系アプリケーションと組込み系プログラム開発の修得。
２年次　Ｃ言語や Java 言語を使った組込みシステムの開発技術の修得。

【選択Ｄ履修者】Ｂクラス
１年次　表計算ソフトに組込むプログラミング技術（ＶＢＡ）、小規模データベース（Ａｃｃｅｓｓ）の構築スキルの修得。
２年次　Ｖｉｓｕａｌ　Ｂａｓｉｃとデータベース管理ツールと連携した業務システムの開発技術の修得。

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋

（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材

産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。

※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材

多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。

※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。

※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

本科は専門士の認定を受けている。

・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。

学修支援等

（概要）
小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
72 人 （100%）	2 人 （2.8%）	67 人 （93.1%）	3 人 （4.2%）

（主な就職、業界等）
システムエンジニア、プログラマー、カスタマーエンジニア、営業、事務　等

（就職指導内容）
1 年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。

（主な学修成果（資格・検定等））
基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、
C 言語プログラミング能力認定試験 2 級、3 級
Microsoft Office Specialist Word2019、Excel2019、PowerPoint2019

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
120 人	7 人	5.8%

（中途退学の主な理由）
精神的理由、進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）
欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	セキュリティネットワーク科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	74 (1,720)	34 (520)	48 (1,440)	0	0	0
			82(1,960)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	24 人	1 人	3 人	11 人	14 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

新たな社会で必要とされる IT インフラの要素であるコンピュータ・サーバー・ストレージ・ネットワーク・周辺機器などのハードウェアとオペレーティングシステムやミドルウェアなどのソフトウェアの構築・運用に関する知識及び企業活動の必須事項となっている情報セキュリティの確保とリスクマネジメントに関する知識など、現場で活用されている技術に関する知識を習得する。各学年の履修概要は以下の通り。

１年次 セキュリティエンジニアの必要な情報セキュリティ、ネットワーク、ＩＣＴ分野の基本知識を学び、セキュリティやネットワークに関する資格試験の合格を目指す。また、クラウド技術やＩｏＴといった新しい分野の基本知識と技術も身につける。

２年次 １年次に身につけた基礎知識と技術を組み合わせ、情報セキュリティシステムやネットワーク構築、サーバ構築などの演習を行うことで、応用技術を身につける。

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。

学修支援等
（概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 （100%）	0 人 （0%）	14 人 （100%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） インフラエンジニア、ネットワークエンジニア、サーバーエンジニア　等			
（就職指導内容） 1 年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報セキュリティマネジメント試験、工事担任者試験第デジタル通信 1 級、2 級 AWS Certified Cloud Practitioner			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	5 人	17.2%
（中途退学の主な理由） 精神的理由、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	ゲームクリエイト科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼間	113 (2,640)	50 (750)	71 (2,130)	0	0	0
			121(2,880)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
75 人	49 人	1 人	4 人	14 人	18 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

ゲームプログラマーを含む IT 技術者の育成を目的に授業を実施する。
授業は講義と演習により構成される。講義科目では、ゲームプログラマーを含む IT 技術者に必要な知識の習得を目的に、基本情報技術者試験のＣＧエンジニア検定などの学習範囲をベースに体系的に学習する。演習科目では、ゲーム制作に必要なプログラミング技術やコンテンツ制作技術の習得を目的に、プログラミング言語を用いてのアプリ・ゲームソフトの開発演習や、ＤＣＣツールを使ってのコンテンツ制作の演習を行う。

各学年の履修概要は以下の通り。

〔１年次〕

ゲームプログラマーを含む IT 技術者として必要な知識の習得、プログラミング言語（主に C 言語）でアプリケーションを制作する基礎技術の習得を講義と演習で、DCC ツールの操作とコンテンツ制作の基礎技術を演習にて行う。

〔２年次〕

１年次に習得したプログラミング技術、コンテンツ制作技術を基礎として、より高度な言語（C＃や C++）を習得、またより高度な DCC ツールを用いてのコンテンツ制作技術を習得し、それらを活かして実践的なゲーム制作に関する演習を行う。

〔３年次〕

２年次までにゲーム制作の技術を基礎に、ゲームエンジンに関する技術を習得し、それらを活用して、個人、またはグループでゲーム制作する総合的な演習を行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋

（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材

産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。

※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材

多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。

※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。

※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

本科は専門士の認定を受けている。

・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。

学修支援等

（概要）
小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24 人 （100%）	1 人 （4.2%）	23 人 （95.8%）	0 人 （0%）

（主な就職、業界等）
ゲームプログラマー、IT 系プログラマー、製造系社内 SE・オペレーター、
IT 系運用エンジニア

（就職指導内容）
1 年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。

（主な学修成果（資格・検定等））
基本情報技術者試験、応用情報技術者試験
サーティファイ C 言語プログラミング能力認定検定 2 級、3 級、
CG エンジニア検定（ベーシック）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	2 人	3.2%

（中途退学の主な理由）
病気療養、進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）
欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・社会福祉	専門課程	未来こども科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	100 単位	46 単位	55 単位	10 単位	0 単位	1 単位
			112 単位				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人	35 人	0 人	6 人	27 人	33 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

幼稚園教諭、保育士となるための授業を行う。授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は保育・幼児教育に必要となる基礎理論等を学習、演習科目は保育技術、表現技術、指導技術等を学習する。また習得した教科全体の知識、技能を基礎として、幼稚園・保育所・認定こども園、児童福祉施設等で現場実習を行う。

各学年の履修概要は以下の通り。

１年次 保育者として必要な基礎理論、基礎技術を学ぶ。また、園見学、ボランティア・自主実習等を経験した後、幼稚園・保育所において観察実習を行う。

２年次 保育者としての専門性を高めるため、1 年次に学習した科目に関連する科目を広く深く学び、さらに知識や技術を深める。また、幼稚園・保育所・児童福祉施設等において本実習を行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数 ＝

（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋（2 × 良の科目数）＋（可の科目数））÷ 科目数

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。

①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材
産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。
※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。

②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材
多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。
※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。

③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材
一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。
※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。

本科は専門士の認定を受けている。修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

学修支援等

（概要）

小テスト、ミニッツペーパー、朝活動等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （100%）	0 人 （0%）	17 人 （100%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） 幼稚園、保育所、認定こども園、障害児施設 等			
（就職指導内容） 1年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 保育士、幼稚園教諭（２種）、認定絵本士、幼児体育指導者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	6 人	15%
（中途退学の主な理由） 精神的理由、進路変更、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門課程	医療事務科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	84 (1,590)	66 (990)	29 (870)	2 (60)	0	0
			97(1,920)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
50 人	28 人	人	3 人	14 人	17 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

医療事務、医師事務作業補助、調剤事務、介護事務職となるための授業を行う。授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は医療事務に必要となる基礎知識等を学習、演習科目は医事コンピュータや電子カルテを基本としている。また地域の医療機関において、医療事務に関係する各種実務実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。
〔１年次〕医療事務に必要な基礎知識として基礎医学や保険請求、患者様対応に必要なコミュニケーション技法等を学び、実際の病院実習体験を通して知識の定着を図る。
〔２年次〕医療事務職の幅を広げる為に調剤事務、介護事務、医師事務作業補助、問題解決能力等について学び、医療人の育成を目指す。

成績評価の基準・方法

（概要）

授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。

成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト・提出課題等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 （100%）	0 人 （0%）	11 人 （100%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） 医療事務職（クリニック、総合病院）、調剤事務職 等			
（就職指導内容） １年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。 また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療報酬請求事務能力認定試験、医科医療事務検定、医事コンピュータ技能検定試験 医師事務作業補助技能認定試験、医療秘書技能検定試験			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.2%
（中途退学の主な理由） 家庭事情		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	国際ＩＴ・ＣＡＤ科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	76 (1,820)	7 (170)	79 (1,950)	0	0	0
			86(2,120)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	45 人	44 人	5 人	10 人	15 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
就職先は製造業、特に、ＣＡＤを利用した設計・製作と、自動化に伴う生産ラインを設計する業務に携わることを想定した授業を行う。授業は講義、演習、実習実技により構成される。講義科目は製造業に関わる基礎知識を学習する。演習科目は実際にＣＡＤを使用した作図や、シミュレータを使用した制御設計を基本としている。実習実技科目は実際にセンサーやシーケンサを使って機械制御を行なう。またＮＣ制御による切削加工、Dobot Magician を制御するプログラミングも行なう。
各学年の履修概要は以下の通り。
１年次 ものづくりに関わる上で必要な基礎知識を学ぶとともに、ＣＡＤの基本操作方法を学習する。また、制御プログラムを作成できるための基礎知識と、プログラミングを学習する。
２年次 さらなる技術力を身につけるために、製品を制作できるレベルのＣＡＤ製図からＮＣプログラムに変換してＮＣ旋盤により自動切削の実習や、シーケンス制御による自動制御の実習により、ものづくり実践をする。

成績評価の基準・方法

（概要）
授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。
成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 （100%）	1 人 （5.6%）	17 人 （94.4%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） ・製造業（生産技術者、製造技術者、CAD 技術者）			
（就職指導内容） 1 年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。企業を学校に招き、職業講話の実施。また、本人に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験　N2、N3、二次元 CAD 利用技術者試験（基礎）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	4 人	10.3%
（中途退学の主な理由） 授業料未納、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	専門課程	国際観光・ビジネス科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	76 (1,820)	2 (40)	84 (2,080)	0	0	0
			86(2,120)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	67 人	63 人	4 人	12 人	16 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
主に観光業で活躍できるサービススタッフになるための授業を行う。観光に関する知識を身に付け、所作などの実践の場で役立つ技術を身に付ける。各学年の履修概要は以下の通り。
１年次　日本語Ｎ２レベルの習得と、観光に関することはもちろん、日本独特の社会への理解を深めビジネス基礎等を身に付ける。
２年次　１年次で学んだことを土台とし、知識をさらに深め、視野を広げ、自分の考えをもって即戦力となれる人材育成を目指す。

成績評価の基準・方法

（概要）
授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。
成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 　本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 　①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 　　産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 　　※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 　②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 　　多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 　　※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 　③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 　　一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 　　※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。 ・１年生　修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。 ・２年生以上　教育課程表において必須となる科目の全ての成績において不可がないこと、学納金に未納がないこと、学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の 15%以内であることを卒業・進級の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29 人 （100%）	0 人 （0%）	22 人 （75.9%）	7 人 （24.1%）
（主な就職、業界等） 宿泊施設(ホテル、旅館)、空港、飲食店			
（就職指導内容） 1 年次からスーツマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、本人及び保護者に対して就職希望調査を行い、内定獲得まで指導を実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験　N１、N2、N3、サービス接遇検定　準１級			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	5 人	7.9%
（中途退学の主な理由） 精神的理由、授業料未納		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・社会福祉	専門課程	国際介護福祉科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数(総単位時間)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	98 (2,208)	46 (698)	35 (960)	19 (610)	0	0
			100(2,268)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	51 人	51 人	3 人	23 人	26 人

（備考）（任意記載事項）
改正後の単位数（１年生）　改正前の単位時間数（２年生）を表記

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
介護福祉士となるための授業を行う。授業は講義、演習、実技により構成される。
講義科目は介護の専門教育に必要となる基礎理論等を学習、演習科目は実際の技術的操作（介護支援技術・介護過程・介護総合演習等）を基本としている。また、介護施設に学生が赴き、高齢者・障がい者に対しての実務実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。
１年次 介護従事者として必要な基礎理論を学ぶとともに、資格外活動（アルバイト）を行う。介護施設への基礎的な介護実習を２回行う。
２年次 介護従事者としての専門性を高めるため、支援技術や介護過程、社会福祉、国家試験等について専門的に学ぶとともに、介護施設へ実践的な介護実習を１回行う。

成績評価の基準・方法

（概要）
授業終了時に修了試験を行う。

成績表は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可および 59 点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。
成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	際立って優れている。人財育成目標に十分に達している。	4
優	80～89 点	優れている。人財育成目標に達している。	3
良	70～79 点	良好である。到達目標に十分達している。	2
可	60～69 点	到達目標に達している。	1
不可	0～59 点	到達目標を満たしていない。	0

成績評価指数　＝
（（4 × 秀の科目数）＋（3 × 優の科目数）＋
（2 × 良の科目数）＋（可の科目数）　　）　÷　科目数

卒業・進級の認定基準
（概要） 本校を卒業する人材は、学則にある「工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 本校では、産業界の将来的な人材ニーズを常に捉え、次に掲げる職業人として必要な能力を「ミライスキル」と定め、それらを育て、それら能力を有する者に対して卒業を認定します。 ①よりよい未来を想像し、実現するための知識や技術を有する人材 産業界で求められる、人材像に向けて職業実践的な専門知識と技能。 ※各学科において、具体的に求められる職業実践的な能力を定める。 ②互いの知識や技術を合わせて、未来のために解決していく力を有する人材 多様な人々とともに、目標に向けて協働する力。 ※「社会人基礎力」の「リームで働く力（チームワーク）」に該当する能力。 ③未来に希望を持って、あきらめずに取り組む意欲を有する人材 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く考え抜き、取り組む力。 ※「社会人基礎力」の「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」に該当する能力。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。 本科は専門士の認定を受けている。修業年限以上在籍し、教育課程表における必修科目および必要単位数を取得できており、学納金に未納がないことを卒業の認定基準とする。
学修支援等
（概要） 小テスト等を実施し、段階的に学生の理解度を把握している。また、個別相談には常に応じ、放課後や長期休暇等の時間を用いて個別フォローを実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （100%）	0 人 （0%）	17 人 （100%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） 介護福祉施設			
（就職指導内容） 1 年次からビジネスマナー講座や履歴書指導、面接練習など、就職活動の準備を開始。また、面談や実習指導を通じて内定獲得まで指導を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士国家試験			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席、遅刻、欠課数に応じ、保護者と連携し段階的に指導を実施。また、メンタル面へのケアとして、学校カウンセラーを配置し、学生の相談窓口、精神的ケアを行う体制を取っている。		

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
グラフィックデザイン科	220,000 円	980,000 円		
デジタルコンテンツ科	250,000 円	980,000 円		
ＣＡＤデザイン科	250,000 円	980,000 円		
メイク・ブライダル科	220,000 円	940,000 円		
ＡＩ×コンピュータ科	250,000 円	980,000 円		
セキュリティネットワーク科	250,000 円	980,000 円		
ゲームクリエイト科	250,000 円	980,000 円		
未来こども科	200,000 円	760,000 円		
医療事務科	250,000 円	980,000 円		
国際ＩＴ・ＣＡＤ科	150,000 円	720,000 円		
国際観光・ビジネス科	150,000 円	720,000 円		
国際介護福祉科	150,000 円	750,000 円		
修学支援（任意記載事項）				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生Ａ・準特待生Ｂ・準特待生Ｃを認定する。				

ｂ）学校評価

自己点検評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
第三者評価は未実施。令和９年５月実施予定 今年度は昨年度分の学校関係者評価を実施 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。 ・主な評価項目 (1)教育理念・目標　(2)教育活動　(3)教育成果　(4)学生支援　(5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ　(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 ・評価委員会の構成 定員：13 名（企業：9 名　卒業生：1 名　保護者：1 名　高校等：1 名 地方公共団体等：1 名） ・評価結果の活用方法 評価結果について、校長（責任者）を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。

第三者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉法人 花の園会 たんぽぽ保育園 園長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
小野経営科学研究所 代表	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
一般社団法人 システムコラボ・マネジメント 理事長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
公益財団法人 静岡県予防医学協会 健康増進課	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
株式会社イデア　代表取締役	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
株式会社スティルアン　管理部	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
株式会社アルファコード 取締役ファウンダー 兼 CTO	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
舘山寺温泉観光協会　専務理事	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
社会福祉法人七恵会　理事長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	企業委員
浜松未来総合専門学校 同窓会 会長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	卒業生
浜松未来総合専門学校 後援会 会長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	保護者
静岡県立磐田西高等学校 校長	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	高校等
浜松市 企画調整部情報システム課	令和８年４月１日～ 令和９年３月３１日（１年）	地方公共団体
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/		
（備考）		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H122310000606
学校名（○○大学 等）	浜松未来総合専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人静岡理工科大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		124人（ 68 ）人	111人（ 62 ）人	126人（ 70 ）人
内訳	第Ⅰ区分	32人	26人	
	（うち多子世帯）	（ －人）	（ －人）	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	（うち多子世帯）	（ －人）	（ －人）	
	第Ⅲ区分	－人	12人	
	（うち多子世帯）	（ －人）	（ －人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	19人	15人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	19人	11人	
	区分外（多子世帯）	38人	37人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				126人（ 70 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	－人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	－人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－人	0人	0人
計	－人	0人	－人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	－人	0人	0人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	－人	0人	－人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	－人	0人
計	－人	－人	－人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。